

ABC

ワシントン大学医学部病理学

村岡直人 Muraoka Naoto

略 歴

2006年 慶應義塾大学医学部卒業，2010年 慶應義塾大学医学部循環器内科入局，2015年 慶應義塾大学医学研究科博士課程修了，2015年 慶應義塾大学医学部生理学教室 日本学術振興会特別研究員 (PD)，2017年 内閣官房健康医療戦略室参事官補佐，2018年 ワシントン大学医学部病理学 日本学術振興会海外特別研究員，現在に至る。

ご自身に関して

医学部に進んだきっかけ

幼少期，元気だった祖母が病気で衰弱していく姿にショックを受け，身近な人を自分で助けられるようになりたいという思いから進学しました。

医学部に進むことを決める以前に抱いていた将来の夢

サッカーが盛んな地域で育ち，プロリーグ発足によりさらにサッカー熱は高まり，幼少期は夢中でボールを追いかけていました。将来はサッカーに関わる仕事をするものだと勝手に思い込んでいました。

研究に関して

(Muraoka N, et al. Role of cyclooxygenase-2-mediated prostaglandin E2-prostaglandin E receptor 4 signaling in cardiac reprogramming. Nat Commun. 2019 ; 10 : 674. について)

この領域の研究に取り組むきっかけ

ありきたりですが，臨床で感じた疑問や限界を解消したく，基礎研究の世界に飛び込みました。循環器疾患のなかでも未知なことが多い分野でチャレンジをしたいと考えていた折，心筋直接リプログラミングという新規の心筋再生法を開発した家田真樹先生が米国留学から慶應義塾大学医学部循環器内科に帰室されると伺い，研究グループに加えていただきました。

この研究において苦労した点

新生児期の線維芽細胞を用いて心筋誘導を促進する薬剤のスクリーニングを行い，非ステロイド性抗炎症薬であるジクロフェナクの同定までは比較的スムーズに進みました。しかし，成体期，新生児期の線維芽細胞でジクロフェナクによる効果が認められる一方で，胎児期では認められず，その背景にある加齢・老化と炎症・線維化